

町田地区保護司会だより

第107号

発行 町田地区保護司会
会長 小山典子
編集 広報部
TEL 042(794)6791



成瀬駅 北口駅前広場



愛しきものはみな遠し

更生保護施設 紫翠苑施設長 真田 安浩

先日紫翠苑と同じ町内にある男子少年院のOB会に出る機会がありました。その会はお開きに出席者全員で「寮歌」を歌うのを恒例としているのですが、16年ぶりに皆と齊唱したその歌の冒頭の一節“愛しきものはみな遠し”に差し掛かった時はっとしました。そのくだけは少年院に収容され婆婆に残したものから隔てられてしまった少年の心情を表現したものだとずっと思っていたのですが、これは施設を出て幾年、すでに自らも更生したと思っている人の心境に通じるのではないかと気がついたのです。

仕事や住居、家族や知人、金や財産そして周囲からの信頼や信用など幸運にもそうしたものを得ることができてもなお失ったものがどれだけあったかを、更生しても折に觸れ何度も繰り返し感じるのでないかと。

運よく更生できた人は少なからずいるはずなのに、家族にもまして他人には進んで名乗らないだけに、なかなか知る機会がありません。まして密かに更生した人の思いを知る機会は多くなく、ずっと目の前にいた人が実はそうだったと知った時の驚きと感慨ははっきりと覚えています。

今は保護司をしているという方、救急救命医療の現場に立ってきたという医師、通りすがりだとわざわざ付言した上でパンの差し入れを申し出た経営者、警察署長の信頼を得て何度も表彰を受けたけど少年院にいたことはまだ話せないという70代の人。たまさか話を聞く時どれもが更生の姿でありながらジグソーパズルのピースはまだ全部埋め切れていないのだなと思うのです。

縁あって更生保護の仕事に足を踏み入れて4年目。2号、3号の女性と過ごす日々から多くの刺激を得ながらも、男性と違うかもしれないそれぞれの更生の姿を、そして長い時間を経た後に当事者が何を感じそしてどんな風景がみているのかをこれからも知りたいと思っています。

因みにこの寮歌の三番最後は“はるけきものよ わがゆくて行途”なのです。

更生保護施設「紫翠苑」 東京都八王子市

紫翠苑は女子少年を主に対象として受け入れている更生保護施設です。家庭に代わって居室や食事を提供し、生活を支えながら職場探しを指導するなど、支援を必要としている女性の再出発を支えています。
(法務省保護局 HPより)



7月31日町田市民ホールに於いて、第68回「社会を明るくする運動」町田大会が441人の参加で開催されました。今年度の大会は昨年までの式典と講演に加えてパフォーマンスとして中学生による吹奏楽の演奏が企画されました。

第一部式典では、小山典子「社会を明るくする運動」町田推進委員会副会長（町田地区保護司会会长）による大会宣言、続いて石阪丈一町田市推進委員会会长（町田市長）の挨拶がありました。

若林町田市議会議長、東京保護観察所立川支部柴田支部長から祝辞をいただき、坂本教育長、町田警察署 荒井生活安全課長、南大沢警察署比嘉生活安全課長代理、長澤主任保護観察官が来賓として紹介されました。

司会は中田和夫推進委員（町田市公立小学校校長会）です。

続いて、第67回「社会を明るくする運動」東京都推進委員会作文コンテストにおいて、優秀賞「東京都更生保護女性連盟会長賞」を受賞した金井中学校2年生、小澤花音さんの「明るい未来のため」の作品朗読がありました。社明街頭駅頭活動にボランティア参加したこと、罪を犯した人の立ち直りには周囲の支えが必要だと分かったと綴っておられます。他の町田市優秀賞作品についても今年からプログラムに掲載され多くの方々に作品に触れていただきました。

第二部は多摩少年院院長 木村敦氏による講演で ①多摩少年院とは ②どんな少年達が入院しているか ③どんな教育支援をしているか ④立ち直りに一番大事なことは何か等についてお話をいただきました。少年院についてさらに理解が深まり、『信



頼関係』が何より大事なこと等、保護司として院長の言葉が共感とともに改めて心に響きました。講演終了後、院長には藤牧素子推進委員会委員（保護司）から感謝の言葉と共に花束が贈られました。

そして第三部のパフォーマンス、南中学校吹奏楽部による演奏が披露されました。曲名はマーチ「ワンドフル ヴォヤージュ」、「シネマメリック」。ドラマチックな演奏は会場を魅了し拍手がしばらく鳴り止みませんでした。時間の制限で二曲しか聞けなかったのが残念なほどでした。また演奏前後の生徒達の行動も、きびきびして清々しく、舞台裏での慌ただしい準備の姿にも感嘆致しました。演奏終了後、吉田廣子推進委員会委員（町田地区更生保護女性会会长）から花束が贈られました。南中の皆さん感動をありがとうございました。

保護司の活動が、保護観察や更生支援のみならず、犯罪の予防活動も含まれるようになって、関連団体とりわけ学校との連携が重要視されてきました。町田大会における作文の朗読は生徒のパフォーマンスをきっかけとして、児童や生徒やその保護者等が「社会を明るくする運動」に関心を持ち、罪を犯した“仲間”的に温かい目をむけてくださったら、町田大会も一層意義あるものになると思います。

（地域活動部 木村 恵里子）



第六ブロック保護司組織運営連絡協議会

「保護司の安定的確保と保護司の育成」

10月19日レンブラントホテルに於いて、田中東京保護観察所長をはじめ多数の参列者をお招きし上記の会が開催されました。

「あと数年で多数の保護司が定年を迎えるため、新しい保護司の発掘や育成に努め保護司活動を楽しく魅力的かつ持続的なものとするために



活発なご意見を！」という小山当番地区保護司会会长のご挨拶を皮切りに中里副会長の司会で進められました。どの地区的発表からも共通の悩みを抱えながらも工夫を凝らして活動されている様子が見られました。



今回初めての試みとして全体協議の時間が設けられました。「保護司候補者検討協議会」について質問が集中し、新任保護司発掘への関心の高さが伺えました。又新人保護司の育成のために、なるべく早くケースを持つようにしたらどうかという意見もありました。このことに關し、柴田立川支部長は講評の中で、ケースを担当してこそ保護司になった実感がわくので、ベテラン保護司との複数担当制によるべく早く担当していただくようになしたいと話されました。有職保護司さんについては柔軟に対応し徐々に深く関わっていただけるようになればという講評をいただきました。



引き続き懇親会が開かれ和やかな歓談のうち閉会しました。
(広報部長 市川 恵子)

『更生保護サポートセンター町田』10周年を祝う会

6月17日市内のホテルにて、「更生保護サポートセンター町田10周年を祝う会」を開催し、歴代の会長をはじめ、長年にわたりサポートセンターに携わられた42名の方々が出席し、盛大に行われました。

各テーブルには、輝く「～10年のあゆみ～」記念誌が置かれ、出席者の関心的でした。



村田センター長の司会進行により、小山会長の「内輪の会なので、和やかに楽しく！皆さんから沢山の苦労話や自慢話を聴きたい」との挨拶に続き、小川元会長は「次世代育成を訴える封筒の印刷や、地域に根差した活動等が評価されたことで瀬戸山賞が受賞できた喜びについて」話されました。

熊澤元会長は「2回のSC移転の思い出や、親子二代の保護司として70年の歩みなどについて」、平本前会長は「経費の透明性や保護司活動を外に向かって広報する必要性について」熱く訴えられました。

仲間と共に汗をかき、共に学び、そして共に目的を達成し、今後の成長を願う言葉の重みがしみじみと伝わってきました。

根本鶴舞会施設長からは、「再犯防止に取り組むため地区保護司会と深く連携を図っていく」と力強いお言葉を頂きました。

中里副会長の乾杯発声後歓談に入り、歴代の副会長5名・センター長3名・相談員長2名・談話室長2名と分区長6名等計18名の方々が、裏話、自慢話、苦労話、歴史話など保護司活動について誇り高く語り続けられました。「様々な大先輩の話を聴けてこの会費ならとても安い」(会場は爆笑)との一幕もありました。努力は報われてはじめて輝くと言いますが、そのことを実証できた10年だと強く感じました。



集合写真撮影後、梅木副会長の言葉で閉会しました。「心をひとつにして20年後へ向けてさらなる成長を！」と決意を新たにしました。

(サポートセンター駐在員 江上 孝範)



10月7日(日)、夏を思わせるような晴天の中「2018年相原ふれあいフェスティバル」が開催されました。堺分区は今年もこのイベントに参加し地域広報活動を実施しました。

このフェスティバルは、相原地区連合町内会が主催し15回目となり、今年は約1万4千人の来場者で賑わいました。

広い相原公園を会場として、焼き鳥・かき氷・コーヒーショップ・竹細工・ボディペイント等模擬店や地域の方のフリーマーケット・射的・ミニ四駆の遊びコーナーやスポーツ体験等100以上の団体の参加協力があり、舞台では小・中学生、地域の方の日頃の成果を披露するダンスや演奏に大きな拍手と歓声が続き、一日中楽しい笑い声があふれていました。

堺分区ではパンフレットにクリアファイル・五穀米・ボールペンを添えて1,000セットを用意配布し、「更生保護活動や社会を明るくする運動」への理解を深めて頂くための地域活動を行いました。

このフェスティバルは、「出会いとふれあいの場」として子どもからお年寄りまで地域の方々の深い絆作りの場として大切なイベントとなっています。安全安心のまちづくりのための「地域の力」を強く感じました。



11月14日(水)、第26回鶴川地区地域懇談会が鶴川市民センターで開催されました。来賓に東京保護観察所立川支部から長澤主任保護観察官を招

いて、学校、地域、保護者そして保護司と総勢172名が参加し、ビデオ放映と興味深い体験プログラム実践により時を忘れるほど惹き込まれるものでした。

第一部は法務省制作の更生保護映像「こころのリレー」を鑑賞。ひとりの青年がコンビニで雑誌を万引きし起訴されその後保護観察となり、保護司や家族等に支えられながら仕事場での人間関係を克服し立ち直っていく姿を観て、保護司の役割の大切さを改めて再認識した13分間でした。

第二部は玉川大学 白山明秀講師による参加型体験プログラム「人間関係づくりのコミュニケーションを考える」の一部を来場者全員で行いました。日々刻々と変化していく社会情勢の中でコミュニケーション力の重要さを謳う白山氏の巧みな話術と会場の空気を一機に捉え対応していく進行により、笑いあり、領きあり、参加者全員が活き活きと、終わる頃には知らないもの同士が心を開いていました。

相手と如何に心を通わせができるようになるか事例を交えた講話は、一語一句が硬くなつた脳への刺激の矢を放たれた感覚でした。今後対象者と向き合う為のヒントをいただいたような気がします。最後にこの度の講演会に参加の機会を与えていただいた全ての人に感謝します。



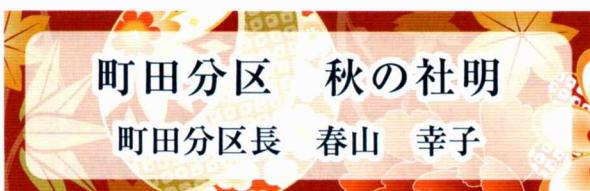
10月21日(日)、忠生市民センターホールで開催された「忠生こどもフェスティバル」の会場入口で私たちは更生保護PR活動を行いました。

この催しは忠生地区協議会が主催して4年前から始まり、昨年までは「忠生芸能まつり」と呼ばっていました。ふるさと忠生で生まれ育った子ども達に日頃一生懸命学んでいる様々な習い事を地域の皆様に披露して、思い出づくりや励みにして

ほしいと期待して続いているそうです。

吹奏楽演奏・ハンドベル・和太鼓演奏・ダンス・弾き語り・チアリーディング・囃子舞い・大道芸・八木節演奏・獅子舞・ダブルダッチ等が披露され来場者からたくさんの声援が送られていました。

私たちは「更生保護ってなんだろう」のチラシとボールペン、綿棒を配布して協力を求めました。皆さん気持ち良く受け取ってくれました。主催者が忠生っ子を励まし続けるこの行事と私たち保護司が実践している更生保護と非行防止活動は同じものだとつくづく感じた一日でした。



秋は忙しいのです。9月の第一日曜日、今年は天候不順で欠席しましたが、フェスタ栄通りのパレードでは、12年連続して参加しています。第二日曜日はフェスタ町田、七つの原町田の商店会主催で行われ、中央大通りのメイン会場と他二会場で20近くのエイサーの団体が賑やかに踊ります。

人出も多く特に暑かったこの日は、隣のブース

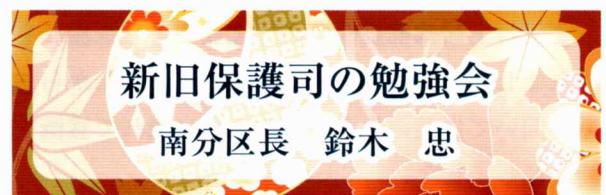


のビールが飛ぶように売っています。その中でウエットティッシュと更生保護パンフレットを配り、刑務作業製品を販売します。製品は公益財団法人矯正協会で購入してきます。

矯正協会は全国の刑務作業の原材料を提供し、製品を販売することで国に協力。刑務作業は刑罰の執行と共に、受刑者の勤労意欲を高め、職業上有用な知識技術も得ることができ、売り上げの一部は犯罪被害者救済にも使われています。

社明活動は罪を犯した人が地域社会に帰って来るのを「おかえり」と言って温かく迎え入れようという運動。作業品を通じ、一般の人も施設内の人々の気持ちに思いを馳せるきっかけになるのではないかと思います。

青少年健全育成地区委員会の祭りにも積極的に参加しています。子ども達の祭りには、子ども達を支える地域の大人達が居ます。彼らと顔見知りになり保護司の仕事を理解してもらいながらこつそり仲間探しをしています。



- ①日本銀行横浜支店の視察と日銀マンによる現況経済についてのレクチャー。
- ②ニュースパーク（日本新聞博物館）の役割についてのレクチャーと館内見学。
- ③中華街での反省会

「まわしよみ新聞」ご存知ですか？

この言葉は館長の日本新聞博物館としての新しい取り組み紹介の中での紹介された言葉ですが、「何人かで新聞を回し読みし、参加各人が自分の気になった記事について、みんなに報告し、仲間はそれについての感想を述べあう」この発表し、意見を述べ合うという行為を通じて、自分自身を客観的に見直し、他者の反応によって更に新しい自分への気付きを感じ、他人の目の付け所を通して他者の価値観を知るなど、この「回し読み」の教育効果が昨今見直されてきて、いま全国にその広がりを見せつつあるということでした。

「対象者の自己評価への手助けになる？」そんな可能性を感じました。

実施日、11月27日、小春日和の中、日銀では「経済の強い日本の現況」を学び、反省会では本格中華を満喫し、楽しく充実した14名の新旧保護司の勉強会でした。





本年度の管外一泊研修は、11月1日（木）から2日（金）に27名の参加で愛知少年院に行きました。両日とも晴天に恵まれて楽しい研修ができました。

愛知少年院の訪問は、二日目に組まれているため、初日は親睦を深める観光地巡りでした。

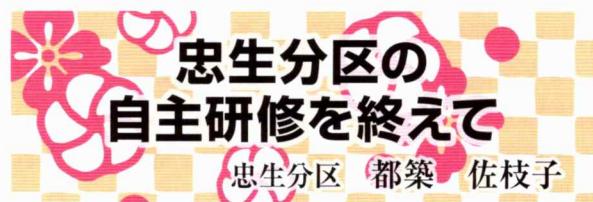
まず村上研修部長念願の「金原明善記念館」を訪れました。浜松の生家に到着、館長さんからお話を聞いて保護司生みの親の人生に触れて感慨を新たにしました。

夜は三谷温泉ホテル竹島に泊りました。今回は新しい部員の参加がなく残念でしたが、楽しい一夜で交流を持つことができました。

二日目は午前中に二ヶ所の見学を行い、昼食を済ませ本題の愛知少年院に向かいました。予定より早めの到着でしたが、少年院次長の柴田さんから施設の説明を受け院内の見学を行いました。100名定員のところ現在53名の入所者が居ることでした。旧海軍航空隊基地の敷地の中に少年刑務所が設置されました。院内には古くからの桜の大木があり、豊田市の名木として花見の頃は開放され桜会が行われているそうです。農園芸科、陶芸科、伝統工芸科があり作品の展示室も見せてもらい、立派な出来栄えに感心しました。

情操教育の一環として犬が飼われていて、見学の際には尾っぽを振ってくれて和やかな雰囲気を感じました。

（研修部 加藤 俊夫）



忠生分区は9月14日に東京都子供家庭総合センターで研修を行いました。参加人数は10名と残念ながら少なかったのですが、研修内容は青少年犯罪や非行の実態と傾向を解りやすく聞かせていただきました。総合センター内にある警視庁新宿少年センターでは、データを元に新宿歌舞伎町等の深夜のゲームセンターや風俗営業が多い実態や初めての補導が8割を占めていることに驚きました。

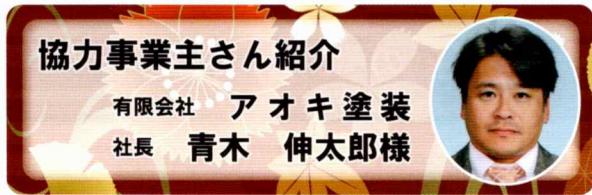


また直接人と関わるものでなく、下着販売や薬物の販売等がインターネットで行われ、クラスメートに蔓延しても学校の先生や家族に実態が把握できず、件数が減らないと言う報告がありました。

親と不和状態の子が多く、学校でも団体行動の経験が少なく苦手の子に対して、学校の取り組みだけでは変化は期待できないということでした。

次に東京都児童相談センター（中央児童相談所）では、専門のスタッフが子ども達のSOSの早期発見に努め、365日切れ目のない緊急相談体制を確保している実態報告がありました。双方とも地域や関係機関との連携・協力の重要性を改めて考えさせられました。研修を通してスキルアップし、地域支援に繋がるように努力したいと思いました。





—どんなお仕事をされている会社ですか?

一般住宅の塗装がメインですが、アパート・マンションなどの大きな建物の塗装を数社で完成させることもあります。また公共施設の塗装もします。東京オリンピックまでかもしれません、今は人手不足で来年まで仕事の予約が入っています。

—初めての人でも出来ますか?

塗装をするのは、建物の仕上げですので最後の工程です。今までやってくれた仕事を台無しにしてはいけません。まずは掃除から始めます。そして、養生、下地、中塗り、上塗りと色々仕事があります。掃除は誰でも出来ますので心配ありません。資格も必要ありません。

—会社のアピールポイントは?

就業時間は8時間ですが、事務所集合は7時30分、現場17時終了、事務所に戻ります。日曜日、祭日は休業日です。まずは塗ってみて、自分に合った仕事か試してもらう為、ローラー塗りをしてもらっています。道具はすべて貸与します。まずは週一でも構わないので、興味のある方は面接にきて下さい。平日仕事上がりの18時以降か、雨の日に面接はでき

ます。

現在3人で仕事をしていますので、多くの人に入社して欲しいです。

—なぜ、協力事業主に?

妙延寺住職の保護司さんに亡き父が少年院から出て来た少年の世話をするよう頼まれたのが始まりです。父はずっと身元引受人になり、住まい、食事を提供していました。私が物心ついた時には、少年達と一緒に食事をしていました。全く抵抗なく兄弟のようにしていました。父の後、叔父も受け入れていましたので自然に私も受け入れをしています。

私はおせっかい人間なので、東京土建組合町田支部の役員もお引き受けしました。

「ここはこんな感じだから、おもしろいよ。楽しいよ。こっちへおいで」というように呼びかけています。

今は「コミュ障」という言葉ができてしまった程、コミュニケーションが苦手な人が増えています。会話を会得する機会に恵まれなかつた人達に会話をする意義、仲間と自分の思いを表現できる喜びを知つてもらう環境を整えていきたいと考えています。仕事仲間に打ち明け話をしているのを耳にするのはとても嬉しいものです。

周りが悪いと人のせいばかりにしている人が段々変わっていくお手伝いができると思っています。何か頑張ろうかなと思い始めたら是非お電話ください。

(広報部 中島 寿子)

品を鑑賞させていただきました。

私の鑑賞力は、草書で書かれた文字を読む力もなければ、漢詩の知識も素養もなく、ただただ全体のバランス?筆の勢い?墨の濃淡?…を順に見させてもらっていたら、矢口さんが鑑賞の手助けにやってくれました。どの様に作品を作っていくのか、漢詩の原文の解説など細かな説明を頂き、「書」をチョッピリ身近に感じさせていただきました。筆運や文字の構成等専門的な話をされて、また一段と鑑賞力が深まり?ました。分区の人材の奥深さに感じ入りました。

今回ご覧いただけなかった方には次回、乞うご期待です。



保護司エッセイ

南分区長 鈴木 忠

梅雨の合間となった6月13日、分区役員 矢口昇保護司の「書」が拝見できるということで、町田市立版画美術館へと駆けつけました。

久しぶりの芹が谷公園は、緑が幾重にも色を競い小鳥のさえずりが此処彼処から降り注ぐ素晴らしい雰囲気、画家のご友人ととの「二人展」に期待が膨らみました。

矢口さんが大勢の人に囲まれて作品の解説をされている姿を横目に受付記帳を済ませ、いざ会場へ。まず正面にある床から天井へと届く超大型の作品に度肝を抜かれました。そして案内ハガキにあった「郎景」をそんな興奮冷めやまぬ気持ちで眺め、書家の友人が案内ハガキの郎景を見ながらつぶやいた「筆が生きている」を実感し、次々と作

受章 おめでとうございます



2018年秋の叙勲

町田地区保護司会 小山典子会長が瑞宝双光章を受章されました。心からお祝いを申し上げますとともに、今後のご健勝と益々のご活躍を心より祈念いたします。

新任のごあいさつ



南分区
村田 政良

この度、9月1日に保護司を委嘱され、町田保護司会南分区に配属されました。出身は成瀬です。

保護司の使命と役割について、はたして自分にできるかどうか不安でいっぱいになります。

これから、諸先輩方にご教示いただき、微力でありますぐ地域の保護司活動に邁進していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



鶴舞会
沼畑 正明

本年4月に更生保護法人鶴舞会に入職し、9月1日に保護司を委嘱されました。

3月まで行刑施設の作業部門で法務技官として勤務していました。これから先輩保護司の皆様のご指導を頂きながら一日も早く仕事を覚え職責を果たしてまいりたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

編集後記

初めて広報部員になり、遅ればせながら本会と各分区の全活動を知り、改めて大きな組織だと確認できました。これらの活動を紹介できるのは、“保護司会だより”ということでとても力が入ってしまいました。

一人ではとてもできない作業が皆の力が合わさることで、より良いものになり楽しい時間にかわることを実感できました。

皆様のご要望を伺い、さらに読み易いものにしていきたいと思いますので、ご意見お待ちしております。毎回快く原稿を寄せていただき、厚く御礼申し上げます。

(広報部 中島 寿子)

退任のごあいさつ



南分区
吉田 廣子

8月31日をもちまして保護司を退任いたしました。14年間皆様の温かいご指導のもと対象者と向い合う事ができ、更生保護の一端を担わせていただきましたことを心より感謝申し上げます。

東更女連盟の方針で、更生保護女性会会長をもう一年継続する事になりました。保護司会と連携して地域社会のお手伝いを「笑顔とやさしさ」を持って出来れば良いと思っております。最後になりましたが、会の発展と皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

お知らせ

多摩地区保護司会連絡協議会ではホームページを開設し、多摩連のトピックスや事業報告・活動報告に加え、保護司つれづれ、各地区のコーナー、保護司の基礎知識等の情報発信を行っていますので、是非ご覧下さい。今後も町田地区の情報の更なる充実を図っていきます。

(多摩連HP <http://www.bz-jpn.com/tamaren/>)

訃報

南分区	井林 周英様
桐友会	小林 重一様
桐友会	加藤 薫憲様

がお亡くなりになりました。
ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。